

統一地方選挙前半戦告示に当たって

2023年3月31日 日本共産党京都府委員会委員長 渡辺和俊

(1) 統一地方選挙前半戦が告示されました。日本共産党は、府会現有12議席を確保して15議席以上、京都市会現有18議席を確保して19席以上をめざします。

府民のみなさんの日本共産党候補者へのご支援を、心から訴えます。

(2) 今回の選挙直前に、京都府が小学校卒業までの子どもの通院医療費無料化を決めました。これは、制度の充実を求める府民の度重なる請願に背を向けてきた自民党・公明党・維新などの妨害をはねのけ、毎回の議会で粘り強く取り上げ追及してきた日本共産党の論戦が実ったものです。京都市会では、11年間に16回も出された「全員制の中学校給食」を求める請願に、自民党が「何回も言うのは税金のムダづかい」などと妨害する中で、日本共産党はすべての請願の紹介議員となり、今回、調査費計上にこぎつけました。一方、3月23日、大山崎町議会で、自民党・公明党などが、前川町長が提案した中学校給食無償化に反対してこれを阻み、昨年の町長・町議選に示された民意を踏みにじりました。

どの議会でも、日本共産党の議席が、府民の運動と結んで子育ての切実な願いを一步ずつ前進させる原動力であることが浮き彫りになっています。

北陸新幹線延伸計画には、府民の6割が「再検討」「中止」を求め、「北山エリア構想」反対署名は16万筆を超えました。この民意と運動、日本共産党の議会論戦が力となって、告示を前に自民党重鎮からも「京都では地下の掘削はなかなか合意できない」の声があがり、植物園を守る方向で計画が見直されました。府民と力を合わせて「税金のムダづかいと環境破壊」を止める日本共産党議席の値打ちが浮き彫りになっています。

「日本共産党候補者への一票で、切実な暮らしの願い実現を」、「日本共産党候補者への一票は、ムダと環境破壊を止める力」と、訴えていきます。

(3) 5年で43兆円もつぎ込み、敵基地攻撃能力保有に突き進む2023年度予算が成立しました。自民党・公明党が「専守防衛」を投げ捨て、憲法を踏みにじる危険な道を突き進み、「まだ踏み込みが足りない」「核共有を」と維新が煽ってきました。そのもとで、敵基地攻撃能力保有の危険性を暴露し、徹底した平和の論陣を張る日本共産党への期待と共感が広がるもとの告示を迎えたのも、今選挙戦の重要な特徴です。

一昨年の総選挙で「安保法制廃止」などを掲げた野党共闘が成立して政権交代をめざしたことに、自公と維新が危機感をもち、共産党を攻撃することで共闘分断をはかってきました。ウクライナ危機に乗じた「大軍拡」の逆流も、なお軽視できません。

この厳しさを乗り越え、「反戦・平和を貫き101年、日本共産党を伸ばして『戦争だけは絶対にダメ』『平和外交を』の声が生きる政治を」と訴え抜き、府会・京都市会日本共産党第二党の力関係をさらに前進させるために力を尽くします。